

5 系統性・連続性を踏まえた教育の充実

幼児期の教育と小学校教育、中学校教育の連続性を踏まえ、中学校卒業やその後の学びまでを見通した上で、子ども一人ひとりの学びや育ちの実態に配慮し、きめ細かな指導を行うことが重要です。

幼保小の接続期においては、子ども一人ひとりが安心して小学校生活をスタートし、自信や意欲を持って活動することができるよう、幼保の教職員と小学校教員が、交流を通して相互理解を深めるとともに、子どもの学びと育ちのつながりを意識して指導することが大切です。

小・中学校においては、小中9年間を一つのまとまりとしてとらえ、子どもの発達の段階に応じたきめ細かな指導を行うことができるよう、目指す子ども像や身に付けさせたい力について共通理解を図るとともに、それぞれの取組について検証し、改善を図ることが大切です。

幼保小連携の推進

■教職員の連携にあたって

- 定期的な情報交換を通して、目指す子どもの姿や取組状況、子ども一人ひとりの状況等について共通理解を図るとともに、スタートカリキュラムの編成や改善に生かす。
- 授業参観を通して、子どもの遊びや学びに向かう姿、指導方法等について相互理解を深める。
- 合同研修会において、教職員の働きかけや保育の環境、学習環境などについて話し合い、相互の指導に生かす。

■児童と幼児の交流の充実に向けて

- 児童と幼児が継続的に交流することができるよう、幼児の小学校体験入学や交流会、行事への相互参加などを年間計画に位置付ける。
- 交流を通して幼児が小学校への期待を高めたり、児童が自分自身の成長を感じたりすることができるよう、それぞれのねらいを明確にした上で実施する。

<子どもの学びと育ちをつなぐために>

幼稚園・保育所（園）
幼保連携型認定こども園

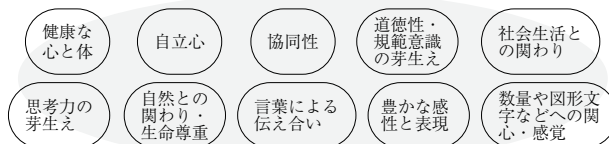
小学校

幼保小教職員による視点を持った話し合い<取組例>

【合同研修会】

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点として、園や学校で見られる課題等について話し合う。

<幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿>



学校生活の中でも「言葉による伝え合い」ができるよう、常に意識させています。

園では、困ったときやトラブルになったときは、自分の思いを話すことができるよう声をかけています。



また、学びやソーシャルスキルに困難を抱えている子どもには、担任だけではなく学校全体でサポートする体制をとっています。

小中一貫した考えに立った教育の充実

■教職員の連携にあたって

- 目指す子ども像や身に付けさせたい力について小中合同会議等で共有化を図るとともに、5つの視点(※)を踏まえ、子どもの発達の段階に応じたきめ細かな指導に努める。
- 小学校と中学校の教員が互いの授業を参観することで、子どもの学ぶ姿をもとに、教職員の関わり方や学習環境、生活のリズム等について共通理解を図る。
- 小・中学校教職員が、子どもの入学後も定期的に情報交換を行うことで、子ども一人ひとりの状況等を把握し、継続した指導ができるようにする。

※5つの視点…本市教育において小中一貫した考えに立った教育の充実を図るため、大切にしたい5つの視点

一貫性と発展性のある学習指導
発達の段階に応じた生き方指導
小中一貫を支える連携体制

連携を重視した生徒指導
児童生徒の交流活動

■児童生徒の交流の充実に向けて

- 小学生は、中学生に対する憧れや中学校生活に向けた期待感を持たせたり、中学生は、自らの成長や達成感を実感し自己有用感を高めたりするなど、双方のねらいを明確にして実施する。
- 地域行事への合同参加など、児童生徒の交流活動のあり方について、学校運営協議会等で話題にし、保護者や地域の願いを生かす。

中学校

学びの連続性を踏まえた指導のための話し合い<取組例>

【小中合同会議】

- ・研究主任および各学年の担当者が集まり、各校における学習指導の取組状況について話し合う。

話し合いのテーマ：タブレット端末の活用について

中学校では、各教科等で個々の考えを集約したり、学びを深めたりする場面でICTの活用が増えています。

本校では、1日1回はタブレット端末を活用するよう心がけているので、技能が少しずつ向上しています。

文字入力に時間がかかる場合があり、学習の積み重ねが大切です。

各学年で、学習のどの場面でどう活用すればよいのかまとめて、指導していきたいですね。

- ・話し合いをもとに、発達の段階を踏まえた共通実践事項を設定するとともに、各校の取組状況を整理し、学校での指導に生かす。